

2022年12月号



# 復活教会便り

電話 082-227-1553

献金用口座 (ゆうちょ銀行) 日本聖公会広島復活教会 店名五一八 (518) 普通 1377700



## アドベントを迎えて



11月27日(日)から、降臨節に入りました。聖公会では、アドベントのことを「降臨節」といいますが、「待降節」と呼んでいる教派もあります。まさに、「イエスさまがこの世に降ってこられるのを待つ」期節

であることが、よく分かる呼び名だと思います。先日、教会ではクリスマスの飾り付けが行われました。当日集まった人たちと、ワイワイしながら準備の時を過ごすことができました。クリスマスの装飾を飾って、教会がいつもより華やかになると、心が躍ります。

そして、聖霊降臨後第一主日の礼拝では、アドベントクランツに最初のロウソクが灯されました。また、夜にはクリスマスツリーの電飾が、教会を照らしてくれています。クリスマスが近づいていることを実感させてくれます。



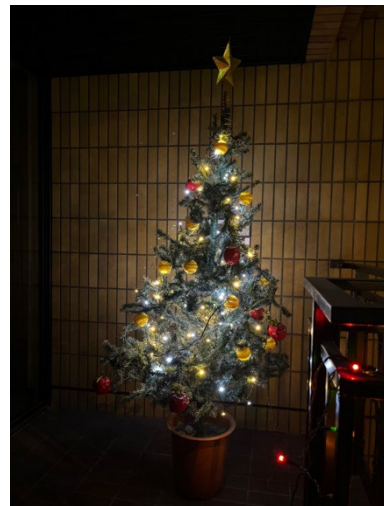
以前、ある方から「聖書には書いていないのに、礼拝でロウソクを使うのは何故ですか」という質問をい

ただいたことがあります。たしかにその通り。特にクリスマスは、イルミネーションやロウソクなど、たくさんの「光」を使いますが、聖書にはそのような記述は一つもありません。何故、教会では「ロウソク」や「イルミネーション」を行うのでしょうか。

それは、「光」がイエスさまを象徴するものと考えられているからです。例えば、福音書を読む時にサーバーが多い教会では、ロウソクの光と一緒に朗読者が礼拝堂の中央に向かいます。これは、朗読者ではなく、「聖書」を照らしています。何故なら、聖書の朗読を通して、イエスさまの福音が語られる時、そこにイエスさまがおられると考えられてきたからです。「光」は、イエスさまがそこにおられることを象徴するものとして、教会で使われてきたのです。

今から2000年以上前、イエスさまはお生まれになった直後に、飼い葉桶に寝かせられるような状況で誕生しました。そして、誕生を最初に知ったのは、「羊飼い」であり「占星術の学者たち」であったと言われています。国を挙げた一大事であったわけでも、多くの人に見守られたわけでもありませんでした。しかし、キリスト教会はそれこそが、救い主の誕生であり、「光」が来られた出来事だと考えてきました。

この一年を振り返った時、私たちを取り巻く社会や



世界には、暗いニュースが多くありました。家族や自分自身の体調の悪化に、苦しみを感じる人も多くおられると思います。しかし、そのような状況だからこそ、「光」であるイエスキリストの誕生を皆さんとお祝いできればと思います。「暗闇を照らす光」としてイエスキリストが今年も来てくださること、そのことを「待つ」。そして「光」を必要としている自分自身や周りの人のために「祈る」ことを大切にしながら、アドベントの期間を過ごしていければと思います。

### チャリティーコンサートときずなマーケット

10月16日にチャリティーコンサート、11月13日にきずなマーケット・子ども祝福式が行われました。「コロナ禍になって、教会でゆっくり誰かと話をする時間が失われている」という声を受けて、開催することになりました。また、従来は「オリーブの会」「日曜学校教師会」「男子会」という既存のグループで協力しあってバザーをしてきましたが、今回は「秋の行事実行委員会」が中心になって、できることをできる形で実施しました。



有志の方達が大活躍の会計コーナー

私が個人的にとっても嬉しかった光景の一つは、皆さんがコーヒーを飲みながら歓談している場面です。互いの近況を語り合ったり、他愛もない話をしたり。初めて会った人たちが話をしている光景もありました。その時間を通して、繋がりが深められたのではないかと思います。



教会前のフリースペースで談笑している様子

また、チャリティーコンサートで 55,375 円もの募金を、ライフリバーに届けることができました。バンングラデシュの入院患者さん4人、外来患者さん 4 人の治療費に充てられました。当日、コンサートには参加できなかったけれど、募金して下さった方がおられると聞いています。できることをできる形でやったことの結果だと思います。教会委員会では、ライフリバーへの支援を、継続的に行なっていけないかという意見も出ています。教会として、誰かのために活動していくことも、宣教の一つかもしれません。どうか皆さん、今後の復活教会の活動が神さまの導きによって示されるように、お祈りください。



子ども祝福式には、10名の子どもが集まりました



聖歌隊の演奏風景

司祭 バルナバ 永野拓也